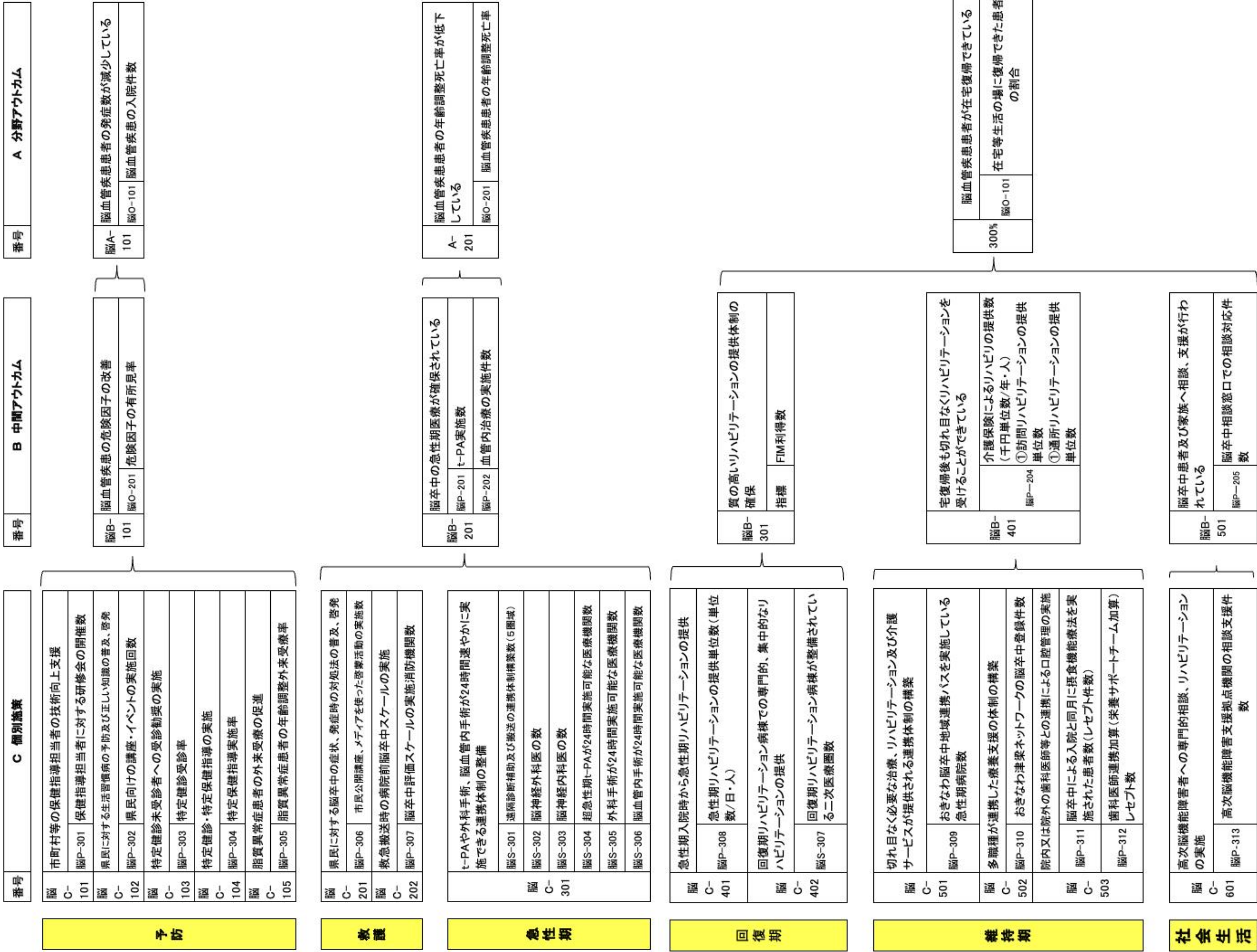


Chapter

3

個別進捗評価（脳卒中）

脳卒中分野 施策・指標体系図



番号	C 個別施策						
予 防	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳C-101) 市町村等の保健指導担当者の技術向上支援						
	脳P-301	保健指導担当者に対する研修会の開催数	R4 年度 5 回	R3 年度 —	R4 年度 5 回	R5 年度 5 回	R11年 5回
	(脳C-102) 県民に対する生活習慣病の予防及び正しい知識の普及、啓発						
	脳P-302	県民向けの講座・イベントの実施回数	R4 年度 4 回	R3 年度 —	R4 年度 4 回	R5 年度 5 回	R11年 5回
	(脳C-103) 特定健診未受診者への受診勧奨の実施						
	脳P-303	特定検診受診率	R3 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R11年
		市町村国保	32.8%	32.1%	32.8%	34.5%	60%
		協会けんぽ	59.8%	57.7%	59.8%	64.2%	65%
	(脳C-104) 特定健診・特定保健指導の実施						
B 中間アウトカム	脳P-304	特定保健指導実施率	R3年度	R2年度	R3年度	R4年度	R11年
		市町村国保	62.3%	61.3%	62.3%	61.9%	現状より向上
		協会けんぽ	31.1%	27.0%	31.1%	24.5%	35%
	(糖C-105) 脂質異常症患者の外来受療の促進						
	脳P-305	脂質異常症患者の年齢調整外来受療率	R2 年度 40.9	H30年度 —	R1 年度 —	R2 年度 40.9	R11 年度 67.7
	指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳B-101) 脳血管疾患の危険因子の改善						
	脳O-201	危険因子の有所見率	R1 年度	H29年度	R1 年度	R2 年度	R11年
		BMI(25.0以上)	40.0%	38.9%	40.0%	40.3%	29.0%
		収縮期血圧(140以上)	19.3%	170.6%	19.3%	20.6%	17.1%
A 分野アウトカム		拡張期血圧(90以上)	13.3%	11.9%	13.3%	14.0%	12.8%
		空腹時血糖(126以上)	6.8%	6.7%	6.9%	6.7%	5.9%
		HbA1c(6.5以上)	8.4%	7.9%	8.4%	8.3%	7.2%
		中性脂肪(150以上)	23.2%	20.9%	23.2%	22.6%	20.2%
		LDLコレステロール(140以上)	30.1%	28.1%	30.1%	30.0%	現状より低下
		HDLコレステロール(40未満)	4.8%	4.9%	4.8%	4.8%	4.2%
		心電図	32.5%	—	32.5%	34.6%	32.0%
	(脳A-101) 脳血管疾患患者の発症数が減少している						
	脳O-101	脳血管疾患の入院件数	R2 年度 4411 人	R2 年度 4411 人	R3 年度 —	R4 年度 4249 人	現状より低下

専門部会意見

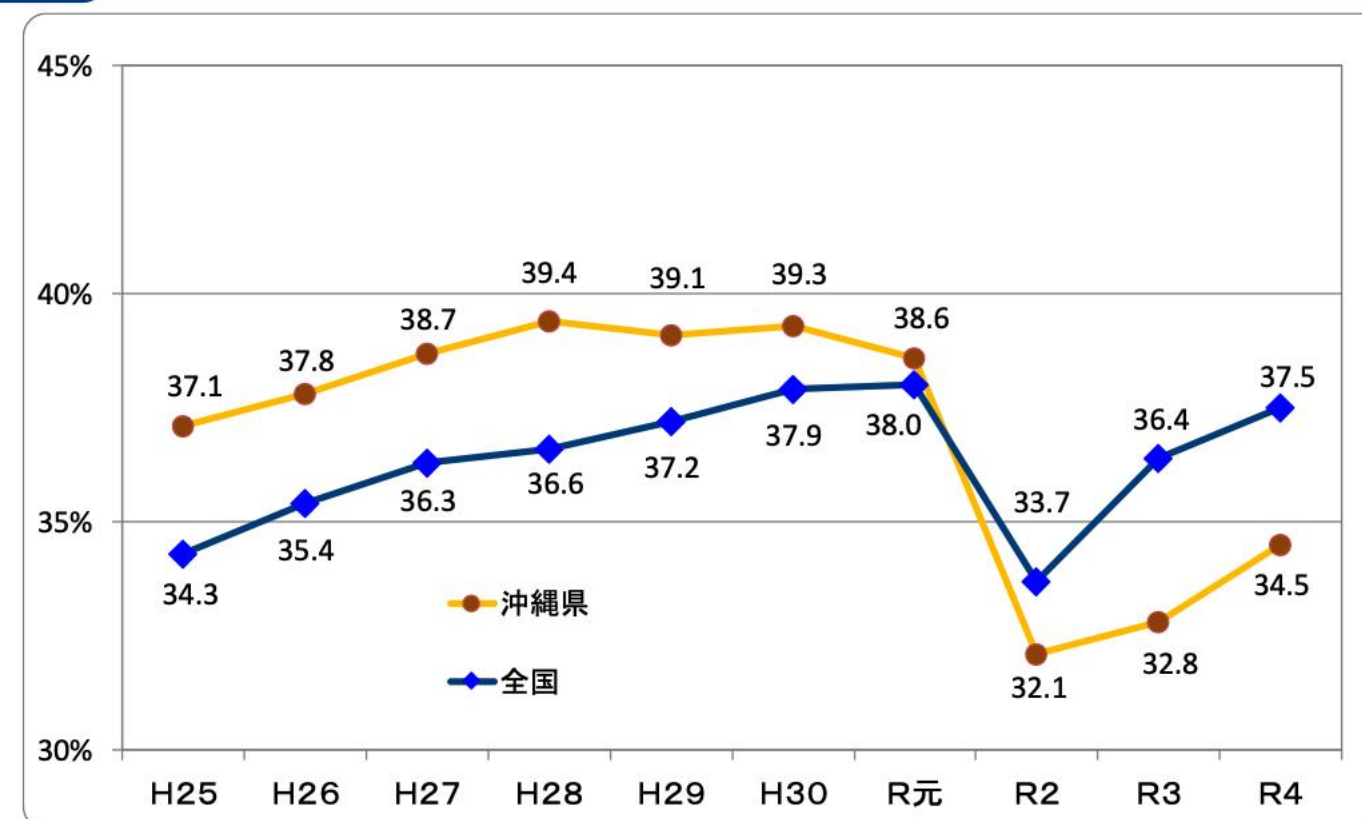
- 脳卒中と脳梗塞では危険因子とそれに対応する個別施策も異なることから、両系分類し個別に評価を行うことが望ましい。
→特に、宮古においては脳出血のSMRが高いことから、血圧管理への対策を検討する必要がある。
- 危険因子の改善（B-101）については、改善している項目もあるが目標値（全国平均）には至っていない。
- コレステロール管理については、施策（C-105)の脂質異常疾患患者の外来受療率も低く、対策が必要。
- 施策（C-103)特定検診未受診者の受診勧奨の実施については、改善されているものの全国に比べ低い状況にある。（次ページ）

(参考) 特定健診受診率と特定保健指導実施率の状況

沖縄県市町村国保の現状

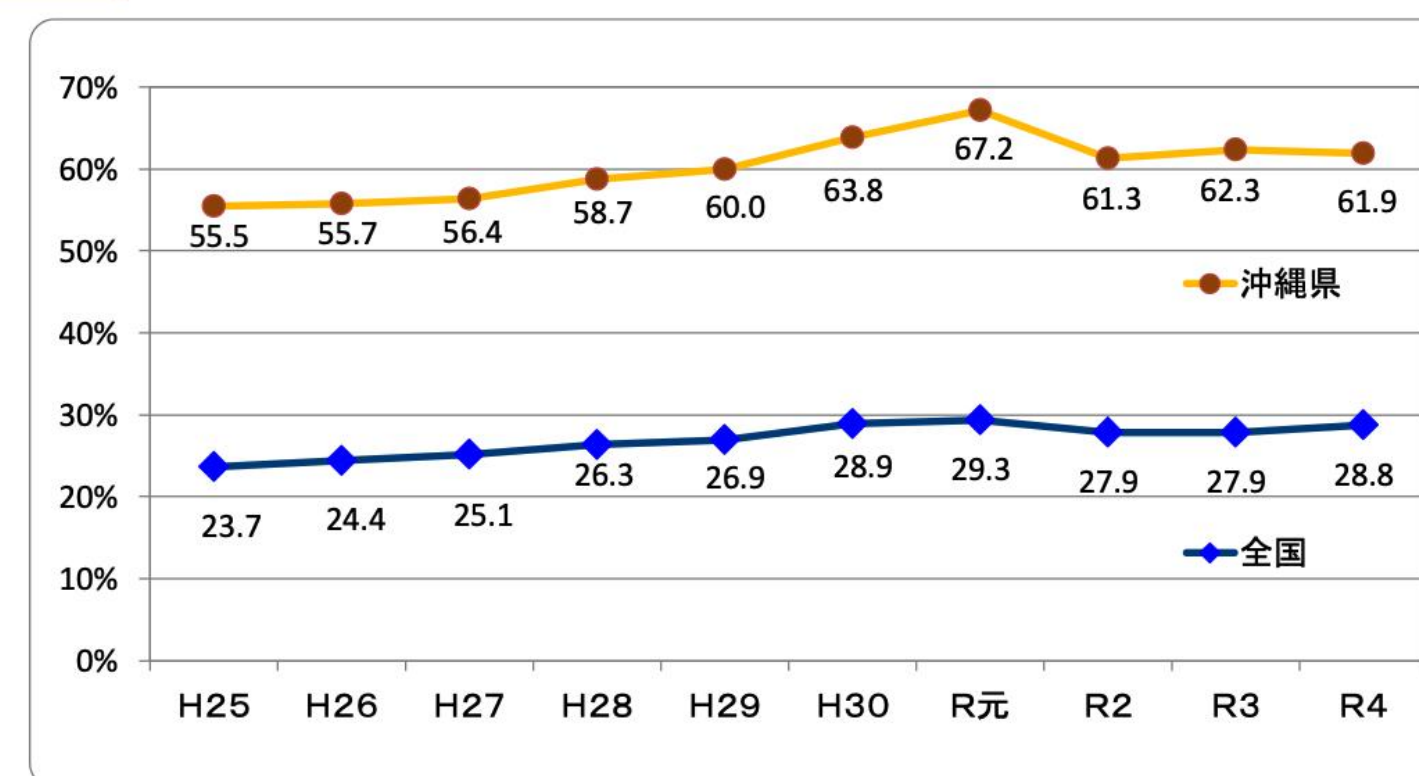
沖縄県

図51 特定健康診査受診率の推移（平成25年度～令和4年度）



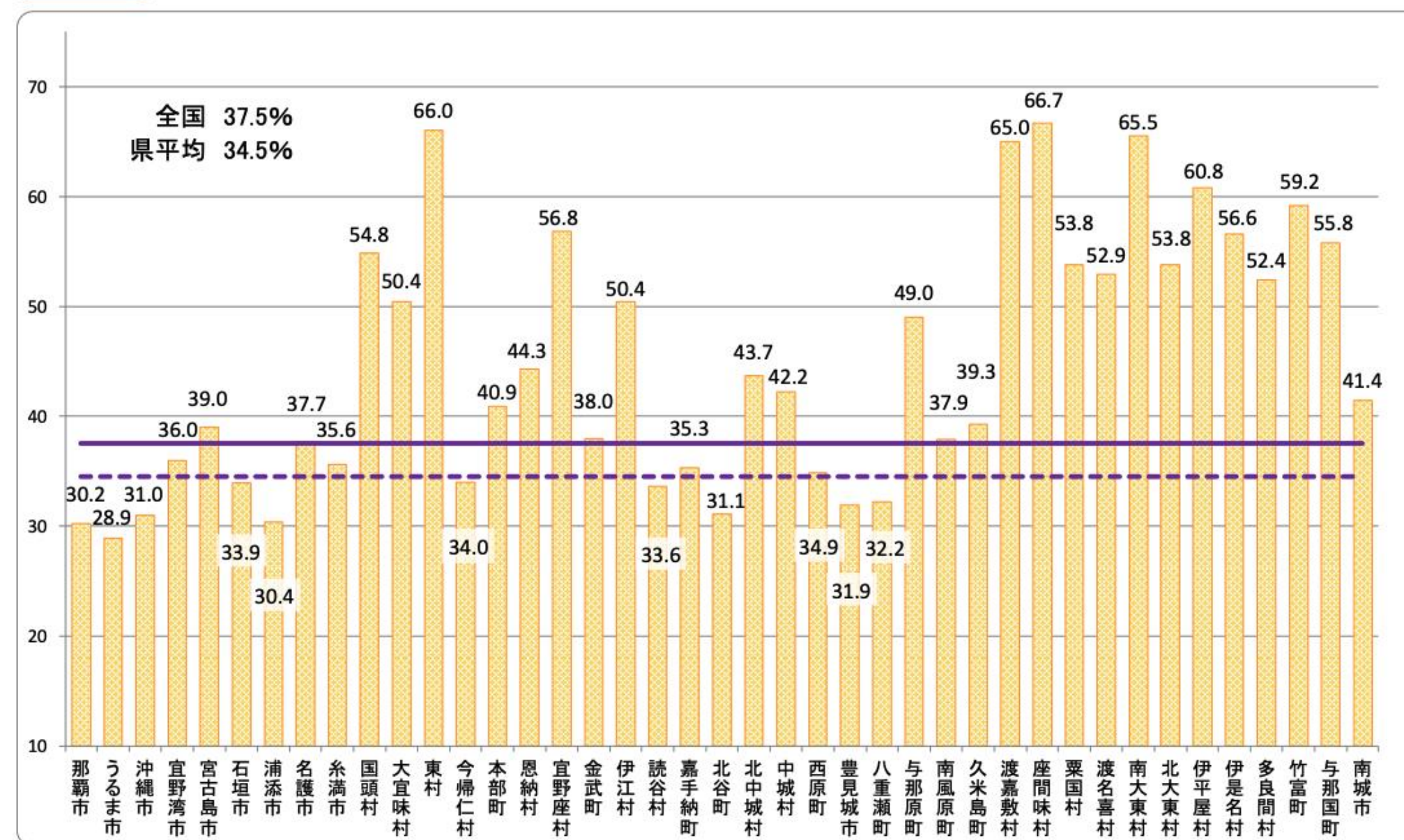
出所：国民健康保険中央会「市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況報告書」各年度

図54 特定保健指導実施率の推移（平成25年度～令和4年度）



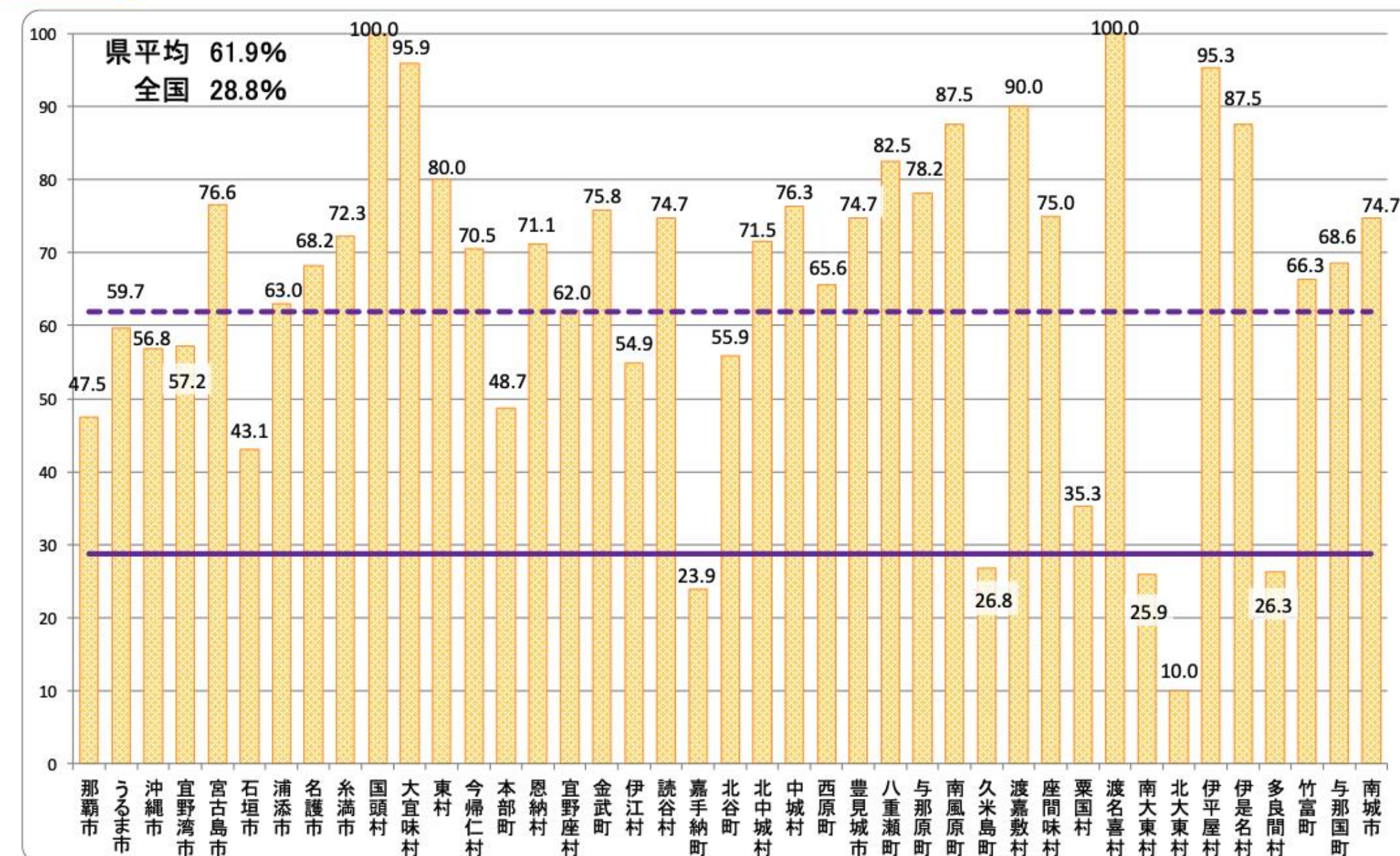
出所：国民健康保険中央会「市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況報告書」各年度

図53 特定健康診査受診率（令和4年度・県内市町村別）



出所：国民健康保険中央会「市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況報告書」

図56 特定保健指導実施率（令和4年度・県内市町村別）



出所：国民健康保険中央会「市町村国保特定健康診査・特定保健指導実施状況概況報告書」

救護	指標項目						
	基準年		直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳C-201) 県民に対する脳卒中の症状、発症時の対処法の普及、啓発						
	脳P-306	市民公開講座、メディアを使った啓蒙活動の実施数	R4 年度 4 回	R3 年度 —	R4 年度 4 回	R5 年度 6 回	R11年 現状より向上

急性期	指標項目						
	基準年		直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳C-202) 救急搬送時の病院前脳卒中スケールの実施						
	脳P-307	救急搬送時の病院前脳卒中スケールの実施消防機関数	R4 年度 15 箇所	R3 年度 —	R4 年度 15 箇所	R5 年度 15 箇所	R11年 → 18 箇所
	(脳C-301) t-PAや外科手術、脳血管内手術が24時間速やかに実施できる連携体制の整備						
	脳S-301	遠隔診断補助及び搬送の連携体制構築数(北部、宮古、八重山圏域)	R4 年度 O圏域	R3 年度 O圏域	R4 年度 O圏域	R5 年度 O圏域	R11年 → 3圏域
	脳S-302	脳神経外科医の数	R4 年度 宮古 2	R3 年度 宮古 —	R4 年度 宮古 2	R5 年度 宮古 1	R11年度 全ての医療圏で提供が可能な体制を確保
	脳S-303	脳神経内科医の数	R4 年度 宮古 0	R3 年度 宮古 —	R4 年度 宮古 0	R5 年度 宮古 1	
	脳S-304	超急性期t-PAが24時間実施可能な医療機関数	R4 年度 宮古 1	R3 年度 宮古 —	R4 年度 宮古 1	R5 年度 宮古 1	
	脳S-305	外科手術が24時間実施可能な医療機関数	R4 年度 宮古 1	R3 年度 宮古 —	R4 年度 宮古 1	R5 年度 宮古 1	
	脳S-306	脳血管内手術が24時間実施可能な医療機関数	R4 年度 宮古 1	R3 年度 宮古 —	R4 年度 宮古 1	R5 年度 宮古 1	

指標項目						
基準年		直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(糖B-201) 脳卒中の急性期医療が確保されている						
脳P-201	t-PA実施数	R4 年度 102 件	R3 年度 86 件	R4 年度 102 件	R5 年度 152 件	現状より向上
脳P-202	血管内治療の実施件数	R4 年度 377 件	R3 年度 —	R4 年度 377 件	R5 年度 291 件	現状より向上

※未報告病院あるため暫定

指標項目						
基準年		直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(脳A-201) 脳血管疾患患者の年齢調整死亡率が低下している						
糖O-102	脳血管疾患患者の年齢調整死亡率(人口10万人あたり)	R2 年度 男性 99.9 女性 52.4	H22年度 48.4 22.4	H27年度 38.1 17.5	R2 年度 男性 100 女性 52	R11年度 93.8 現状より低下
参考	脳血管疾患患者の性・年齢階級別死亡率(人口10万人あたり)	(男性)			(男性)	R11
		70-74歳 131	—	—	70-74歳 131	現状より低下
		65-69歳 100	—	—	65-69歳 100	85.3
		60-64歳 59.0	—	—	60-64歳 59.0	53.9
		55-59歳 61	—	—	55-59歳 61	35.6
		50-54歳 30	—	—	50-54歳 30	26.4
		45-49歳 15	—	—	45-49歳 15	現状より低下
		40-44歳 29	—	—	40-44歳 29	10.9
		(女性)			(女性)	
		70-74歳 57	—	—	70-74歳 57	現状より低下
		65-69歳 23	—	—	65-69歳 23	現状より低下
		60-64歳 18	—	—	60-64歳 18	現状より低下
参考	脳内出血の年齢調整死亡率(人口10万人あたり)	55-59歳 20	—	—	55-59歳 20	15.8
		50-54歳 24	—	—	50-54歳 24	14
		45-49歳 13	—	—	45-49歳 13	9.2
		40-44歳 10	—	—	40-44歳 10	4.9
		R2 年度 男性 34 女性 18	H30年 — —	R1 年度 — —	R2 年度 男性 34 女性 18	R11 31.9 16.3

専門部会意見

- 脳卒中スケールについては、その実施だけでなく、スケールの統一、病前の情報共有についても取組を進めていくべき。
→宮古圏域においては脳卒中スケールが実施されていない。今後導入検討が必要と思料される。
- 脳卒中の急性期治療ができる体制は全医療機関におて整備されている。（集約化については、今後、議論をしていく必要があると思料される。（県協議会意見））

参考（脳卒中救急搬送時の病院前評価スケールの使用状況について）

		脳卒中救急搬送時の病院前評価スケールの使用状況について						
消防（局）本部名	所在する医療圏	スケール 常時使用	トリアージに用いるスケール	重症度判断に用いるスケール	搬送先病院との連携	連携の内容	導入検討	スケール導入に当たった課題等
国頭地区行政事務組合消防本部	北部	はい	CPSS elvoスクリーン	特にスケールを用いていない	はい	Just-7Score(アプリ)を地区MCで導入しており、アプリ使用についてのみ病院側共有している		
名護市消防本部	北部	はい	ELVO・JAST-7 SCORE	ELVO・JAST-7 SCORE	いいえ		いいえ	・ELVOについては沖縄県ドクターヘリとの連携を図っている。 ・JAST-7SCOREを使用しJOINで病院へ転送が連絡時に情報提供している。
本部町今帰仁村消防組合消防本部	北部	はい	その他（JUST-7 Score）	KPSS（倉敷）	はい	北部地区MC協議会の中で導入を行い、搬送先選定に係る判断材料として情報共有を行うよう努めています。		
金武地区消防衛生組合消防本部	中部	はい	CPSS（シンシナティ）	KPSS（倉敷）	はい	CPSS KPSS ELVOスクリーン JUST7 等を用いてファーストコール時に情報し適切に病院選定できるよう連携を図っている。		
ニライ消防本部	中部	いいえ	特にスケールは用いていない	特にスケールは用いていない	はい		はい	
宜野湾市消防本部	中部	はい	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	はい	傷病者の搬送及び受け入れの実施に関する基準に基づき、脳卒中疑いが受け入れ可能な病院を選定し搬送している。		
沖縄市消防本部	中部	はい	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	いいえ		いいえ	
中城北中城消防本部	中部	はい	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	いいえ		いいえ	・現在CPSSスケールを主に活用し、不具合は感じていない。
うるま市消防本部	中部	はい	CPSS（シンシナティ）	特にスケールを用いていない	いいえ	沖縄県が策定した「傷病者の搬送及び受入の実施に関する基準」に基づき対応している。		
豊見城市消防本部	南部	はい	CPSS（シンシナティ）	KPSS（倉敷）	はい	検証会議などで情報共有を図っている		
久米島町消防本部	南部	はい	CPSS（シンシナティ）	JUST7	はい	受入先医療機関(1医療機関のみ)に脳卒中評価スケールの情報提供を行い、医療機関の判断でドクターヘリまたは自衛隊による急患空輸への要請を行う。		
那覇市消防局	南部	いいえ	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	いいえ	基本的に、「傷病者の搬送及び受入の実施に関する基準」の医療機関リストを参考に搬送病院を選定しています。 一部病院からは、搬送時にJUSTスコアの点数を教えて欲しいとの依頼を受けることがあります。	いいえ	
東部消防組合消防本部	南部	はい	CPSS（シンシナティ）	JUST-7 score	はい	・評価スケールによる判定結果に応じた搬送先の選定について、救急病院へ伝達し情報共有を図っている。 ・主にCPSSが広く普及しているため病院にもCPSSに基づいた観察結果報告しているのが現状（沖縄県：傷病者の搬送及び受け入れの実施に関する基準） ・LVOの観察項目については今後MC協議会で検討される可能性あり。		
浦添市消防本部	南部	はい	ELVOスクリーン	ELVOスクリーン	はい	沖縄県MC協議会で定められた「傷病者の搬送及び受け入れ実施に関する基準」に基づき、傷病者の観察、評価の情報を病院連絡時に報告。また、搬送中の傷病者情報を含め到着後、医師に総合的に引き継ぎを行っている。	はい	
島尻消防組合消防本部	南部	いいえ	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	いいえ		いいえ	
糸満市消防本部	南部	はい	CPSS（シンシナティ）	特にスケールは用いていない	いいえ			
宮古島市消防本部	宮古	いいえ	特にスケールは用いていない	特にスケールは用いていない			いいえ	
石垣市消防本部	八重山	はい	CPSS（シンシナティ）	KPSS（倉敷）	はい	医療機関への収容依頼実施時にバイタルサインと合わせて評価スケールを報告しています。		

回復期・維持期・社会生活

回復期	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(糖C-401) 急性期入院時から急性期リハビリテーションの提供							
	脳P-308	急性期リハビリテーションの提供単位数(単位数/日・人)	R4 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		R11年度
			3.41	—	3.41	3.86	📈	2.8
維持期	(糖C-402) 回復期リハビリテーション病棟での専門的、集中的なリハビリテーションの提供							
	脳S-307	回復期リハビリテーション病棟が整備されている二次医療圏数	R4 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		R11年度
			4	—	4	4	→	5

指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(脳B-301) 質の高いリハビリテーションの提供体制の確保							
脳P-203	FIM利得数	R2 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		現状より向上
		25.2	25.2	—	25.5	📈	

維持期	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳C-501) 切れ目なく必要な治療、リハビリテーション及び介護サービスが提供される連携体制の構築							
	脳P-309	おきなわ脳卒中地域連携バスを実施している急性期病院数	R4 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		R11年度
			11 施設	—	11 施設	11 施設	→	現状より増加
維持期	(脳C-502) 多職種が連携した療養支援の体制の構築							
	脳P-204	おきなわ津梁ネットワークの脳卒中登録件数	R4 年度	R2 年度	R4 年度	R5 年度		新規発症者の全例登録
			7492 件	6055 件	7492 件	8210 件	📈	
維持期	(脳C-503) 院内又は院外の歯科医師等との連携による口腔管理の実施							
	脳P-311	脳卒中による入院と同月に摂食機能療法を実施された患者数(レセプト件数)	R3 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度		R11年度
			2147 件	—	2147 件	1941 件	📉	現状より増加
	脳P-312	歯科医師連携加算(栄養サポートチーム加算)レセプト数	R3年度	R2年度	R3年度	R4年度		R11年度
			1776 件	—	1776 件	1822 件	📈	現状より増加

指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(脳B-401) 在宅復帰後も切れ目なくリハビリテーションを受けることができる							
脳P-204	介護保険によるリハビリテーションの提供数(千単位数/年・人)	R3年度	R2年度	R3年度	R4年度		R11年度
	①訪問リハ	0.8	0.9	0.8	0.9	📈	現状より増加
	②通所リハ	12.1	11.4	12.1	11.1	📉	

指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(脳A-301) 脳血管疾患患者が在宅復帰できている							
糖O-103	在宅等生活の場に復帰できた患者の割合	R2 年度	—	H29年度	R2 年度		R11年度
		沖縄県 48.8	沖縄県 —	沖縄県 52.1	沖縄県 48.8	—	54.4% (全国平均並みへ改善)
		北部 52.1	北部 —	北部 42.9	北部 52.1	—	
		中部 43.5	中部 —	中部 45.4	中部 43.5	—	
		南部 51.8	南部 —	南部 48.3	南部 51.8	—	
		宮古 70.8	宮古 —	宮古 48.1	宮古 70.8	—	
		八重山 25.0	八重山 —	八重山 83.4	八重山 25.0	—	

社会生活	指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	(脳C-601) 高次脳機能障害者への専門的相談、リハビリテーションの実施							
	脳P-313	高次脳機能障害支援拠点機関の相談支援件数	R4 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		R11年度
			1332 件	1240 件	1332 件	1026 件	📉	現状より増加

指標項目		基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
(糖B-501) 脳卒中患者及び家族へ相談、支援が行われている							
脳P-205	脳卒中相談窓口での相談対応件数	R4 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度		現状より増加
		102 件	—	102 件	99 件	📉	

※未報告病院あるため暫定

- 宮古圏域における脳血管疾患患者の在宅復帰率は高い。
(回復期リハビリテーション病棟が整備されていないなかでは、効率性は高いと推察される)
(維持期におけるリハビリテーションが積極的に活用されている可能性も考えられる)

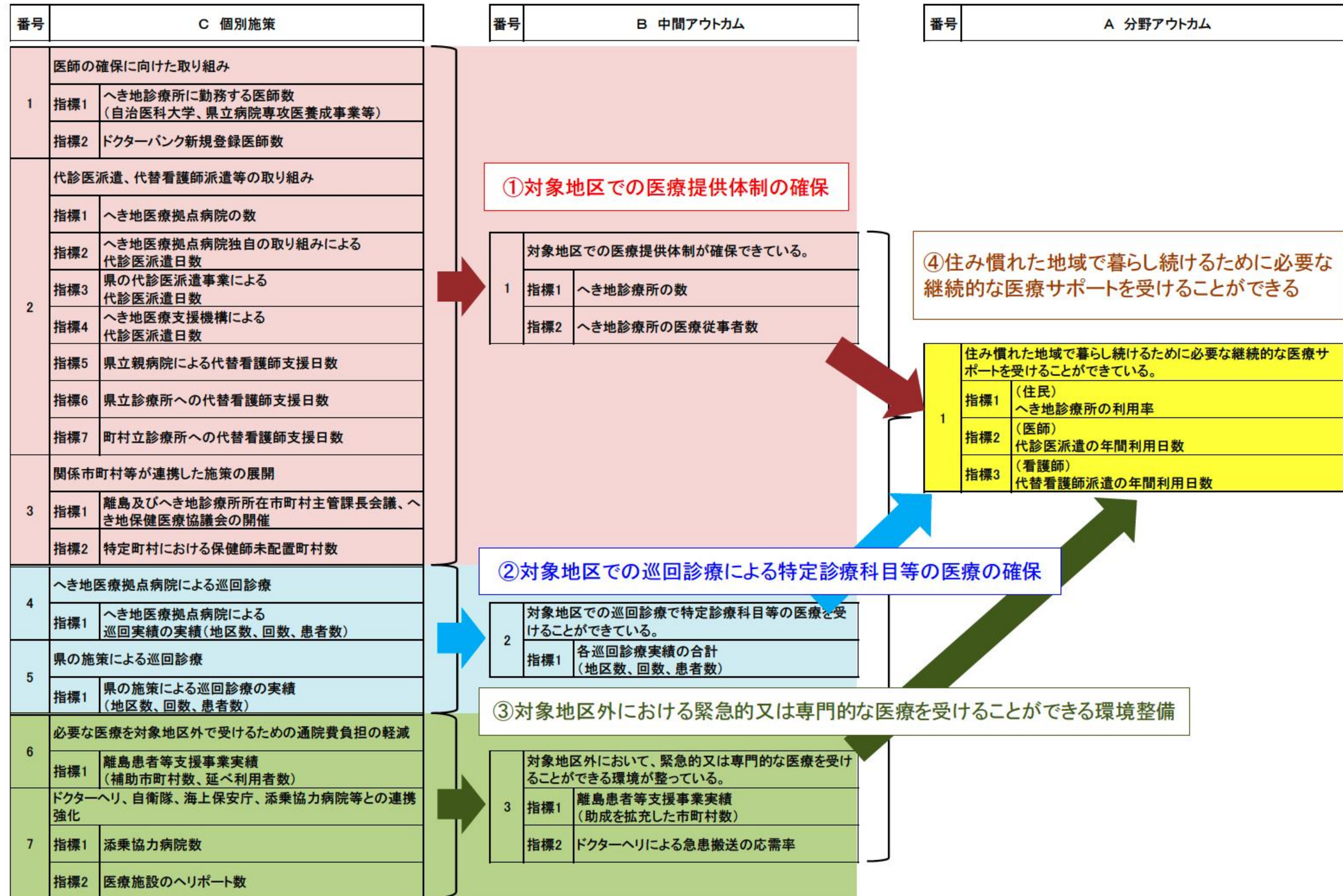
Chapter

4

個別進捗評価（へき地医療）

へき地医療分野のロジックモデル

へき地の医療分野 施策・指標体系図



医療提供体制の確保

番号		C 個別施策								
医師の確保に向けた取り組み				指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
1	指標1	へき地診療所に勤務する医師数 (自治医科大学、県立病院専攻医養成事業等)		自治医科大学	(R4年) 5名	(R3年) —	(R4年) 5名	(R5年) 5名		(R11年) 16名
				県立病院専攻医養成事業	(R4年) 4名	(R3年) —	(R4年) 4名	(R5年) 3名		
				地域枠	(R4年) 3名	(R3年) —	(R4年) 3名	(R5年) 3名		
	指標2	ドクターバンク新規登録医師数		—	(R4年) 38名	(R3年) —	(R4年) 38名	(R5年) 46名		(R11年) 15名／年
代診医派遣、代替看護師派遣等の取り組み				指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
2	指標1	へき地医療拠点病院の数		—	(R4年) 7病院	(R3年) 7病院	(R4年) 7病院	(R5年) 7病院		(R11年) 10病院
	指標2	へき地医療拠点病院独自の取り組みによる代診医派遣日数		—	(R4年) 629日	(R3年) 430日	(R4年) 635日	(R5年) 1,031日		(R11年) 650日
	指標3	県の代診医派遣事業による代診医派遣日数		—	(R4年) 147日	(R3年) 158日	(R4年) 147日	(R5年) 132日		(R11年) 200日
	指標4	へき地医療支援機構による代診医派遣日数		—	(R4年) 109日	(R3年) 34日	(R4年) 109日	(R5年) 90日		(R11年) 150日
	指標5	県立親病院による代替看護師支援日数		—	(R4年) 286日	(R3年) 139日	(R4年) 286日	(R5年) 282日		(R11年) 152日
	指標6	県立診療所への代替看護師支援日数		—	(R4年) 443日	(R3年) 389日	(R4年) 443日	(R5年) 487日		(R11年) 400日
	指標7	町村立診療所への代替看護師支援日数		—	(R4年) 70日	(R3年) —	(R4年) 70日	(R5年) 71日		(R11年) 75日
関係市町村等が連携した施策の展開				指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
3	指標1	離島及びへき地診療所所在市町村主管課長会議、へき地保健医療協議会の開催		—	(R4年) 0回	(R3年) 1回	(R4年) 0回	(R5年) 4回		(R11年) 2回／年
	指標2	特定町村における保健師未配置町村数		—	(R4年) 1箇所	(R3年) 0箇所	(R4年) 1箇所	(R4年) 1箇所		(R11年) 0箇所

番号		B 中間アウトカム								
1	対象地区での医療提供体制が確保できている		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標	
	指標1	へき地診療所の数	医科	(R4年) 25診療所	(R3年) 25診療所	(R4年) 25診療所	(R5年) 25診療所	→	(R11年) 25診療所	
			歯科	(R4年) 13診療所	(R3年) 14診療所	(R4年) 13診療所	(R5年) 13診療所	→	(R5年) 13診療所	
	指標2	へき地診療所の医療従事者数	医師	(R4年) 30名	(R3年) 29名	(R4年) 30名	(R5年) 30名	↗	(R11年) 30名	
			看護師	(R4年) 46名	(R3年) 44名	(R4年) 46名	(R5年) 48名	↗	(R11年) 46名	
			歯科医師	(R4年) 15名	(R3年) 14名	(R4年) 15名	(R5年) 14名	↘	(R11年) 16名	
			歯科衛生士	(R4年) 8名	(R3年) 5名	(R4年) 8名	(R5年) 5名	↘	(R11年) 8名	
					99名		97名		100名	

番号

A 分野アウトカム

1	住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な継続的な医療サポートを受けることができる		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	指標1	(住民) へき地診療所の利用率	医科	(R4年) 54.9%	(R3年) 55.7%	(R4年) 54.9%			(R11年) 50%
			歯科	(R4年) 51.8%	(R3年) 59.4%	(R4年) 51.8%			(R11年) 50%
	指標2	(医師) 代診医派遣の年間利用日数	—	(R4年) 885日	(R3年) 622日	(R4年) 891日	(R5年) 1,253日		(R11年) 1,000日
	指標3	(看護師) 代替看護師の年間派遣日数	—	(R4年) 799日	(R3年) 528日	(R4年) 799日	(R5年) 840日		(R11年) 627日

- 生産年齢人口が減る中、医療人材確保は今後大きな課題となってくるが、現状は代診派遣等の取組によりへき地医療の医療提供体制は確保されていると思料される（最終アウトカム指標2・指標3）
- へき地診療所の数も目標値を維持している（中間アウトカム指標1・2）

代診医派遣及び代替看護師派遣等の取り組み

(1) へき地診療所の代診医利用実績

(単位：日)

NO	診療所名	R1年度					R2年度					R3年度					R4年度					R5年度				
		親病院	拠点	県	機構	計	親病院	拠点	県	機構	計	親病院	拠点	県	機構	計	親病院	拠点	県	機構	計	親病院	拠点	県	機構	計
1	国頭村立診療所														0						0					0
2	国頭村立東部へき地診療所				12	12				7	7				5	5				9	9				10	10
3	大宜味村立診療所														0						0					0
4	東村立診療所														0						0					0
5	伊江村立診療所				29	29					0			4	4	8				4	4					0
6	県立伊平屋診療所	62			16	78	16				16	23				23	48		3	9	60	78		6	11	95
7	県立伊是名診療所	33			19	52	25				25	19				19	55			14	69	51				51
8	県立津堅診療所	11		65		76	437		73	8	518	140		18		158	128		12		140	188		17		205
9	県立久高診療所	7		1		8	9		6		15	9		6		15	9		2		11	23				23
10	県立附属渡嘉敷診療所	39		8		47	11		18		29	30		21		51	17		26		43	35		23		58
11	県立座間味診療所	19			12	31	11		23		34	15		34		49	36		19	5	60	51		12		63
12	県立阿嘉診療所	4		2	14	20	8		5		13	11		6		17	8		14	6	28	35		4	7	46
13	県立粟国診療所	14		5	9	28	15		10	8	33	34		13	7	54	33		14	8	55	51	3	19	4	77
14	県立渡名喜診療所	37			17	54	14		9		23	19		18		37	27		18	13	58	39	11	9		59
15	県立南大東診療所	24		5	8	37	19		8		27	18		23		41	49		28		77	115		42		157
16	県立北大東診療所	16		6	11	33	16		6		22	4		11	6	21	21		4	6	31	25	7		8	40
17	県立多良間診療所	47				47	23		3		26	49		4		53	67		4		71	53				53
18	竹富町立竹富診療所									40	40				12	12				11	11				11	11
19	竹富町立黒島診療所				27	27				24	24					0				13	13				16	16
20	県立小浜診療所	42		3		45	34				34	22				22	43				43	83			11	94
21	県立大原診療所	27		3		30	5				5	15				15	41				41	51	10			61
22	県立西表西部診療所	114		85		199	12		4		16	11				11	41		3		44	30	11			41
23	県立波照間診療所	29		4		33	26				26	11				11	12				12	81				81
24	与那国町立与那国診療所				27	27				17	17					0				11	11				14	14
計		525	0	187	201	913	681	0	165	104	950	430	0	158	34	622	635	0	147	109	891	989	42	132	92	1255

● 代診医派遣及び代替看護師派遣実績は増加傾向にある

(2) 代替看護師の派遣実績

(単位：日)

項目	R2	R3	R4	R5
県立病院による派遣実績	138	139	286	282
県立診療所への派遣実績	381	389	443	487
町村立診療所への派遣実績			70	71
合 計	519	528	729	769

巡回診療による医療の確保、区域外において医療を受けられる環境整備

番号	C 個別施策
----	--------

番号	B 中間アウトカム
----	-----------

番号	A 分野アウトカム
----	-----------

4	へき地医療拠点病院による巡回診療		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	指標1	へき地医療拠点病院による巡回診療の実績	地区数	(R4年) 6地区	(R3年) 6地区	(R4年) 6地区	(R5年) 6地区	→	(R11年) 6地区
			延べ回数	(R4年) 34回	(R3年) 28回	(R4年) 34回	(R5年) 36回	↗	(R11年) 34回
			延べ患者数	(R4年) 272人	(R3年) 162人	(R4年) 272人	(R5年) 307人	↗	(R11年) 272人
5	県の施策による巡回診療		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	指標1	県の施策による巡回診療の実績	地区数	(R4年) 9地区	(R3年) 8地区	(R4年) 9地区	(R5年) 9地区	→	(R11年) 20地区
			延べ回数	(R4年) 96回	(R3年) 83回	(R4年) 96回	(R5年) 100回	↗	(R11年) 225回
			延べ患者数	(R4年) 1,192人	(R3年) 1,118人	(R4年) 1,192人	(R5年) 1,304人	↗	(R11年) 2,400人

必要な医療を対象地区外で受けるための 通院費負担の軽減			指標項目	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	目標
6	指標1	離島患者等支援事業実績	本事業を活用 する市町村数	(R4年) 15市町村	(R3年) 15市町村	(R4年) 15市町村	(R5年) 15市町村	→	(R11年) 18市町村
			延べ利用者数	(R4年) 3,253人	(R3年) 3,306人	(R4年) 3,253人	(R5年) 4,328人	↗	(R11年) 3,500人
	ドクターヘリ、自衛隊、海上保安庁、添乗協 力病院等との連絡強化		指標項目	基準年	直近の 前々年	直近の 前年	直近	結果	目標
7	指標1	添乗協力病院数	—	(R4年) 12病院	(R3年) 12病院	(R4年) 12病院	(R5年) 12病院	→	(R11年) 14病院
	指標2	医療施設のヘリポート数	—	(R4年) 5病院	(R3年) 5病院	(R4年) 5病院	(R5年) 6病院	↗	(R11年) 12病院

対象地区での巡回診療で特定診療科目等の医療を受けることができる			指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
2	指標	各巡回診療実績の合計	地区数	(R4年) 14地区	(R3年) 13地区	(R4年) 14地区	(R5年) 14地区	→	(R11年) 20地区
			延べ回数	(R4年) 130回	(R4年) 111回	(R4年) 130回	(R5年) 136回	↗	(R11年) 225回
			延べ患者数	(R4年) 1,464人	(R4年) 1,280人	(R4年) 1,464人	(R5年) 1,611人	↗	(R11年) 2,400人

3	対象地区外において、緊急的又は専門的な医療を受けることができる環境が整っている		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	指標1	離島患者等支援事業実績(助成を拡充した市町村数)	助成を拡充した市町村数	(R4年) 15市町村	(R3年) 15市町村	(R4年) 15市町村	(R5年) 17市町村	↗	(R11年) 18市町村
	指標2	ドクターヘリによる急患搬送の応需率	—	(R2年) 82%	(R1年) 83%	(R2年) 82%	(R3年) 80%	↘	(R11年) 82%

1	住み慣れた地域で暮らし続けるために必要な継続的な医療サポートを受けることができる		指標項目	基準年	直近の前々年	直近の前年	直近	結果	目標
	指標1	(住民)へき地診療所の利用率	内科	(R4年) 54.9%	(R3年) 55.7%	(R4年) 54.9%			(R11年) 50%
			歯科	(R4年) 51.8%	(R3年) 59.4%	(R4年) 51.8%			(R11年) 50%
	指標2	(医師)代診医派遣の年間利用日数	—	(R4年) 885日	(R3年) 622日	(R4年) 891日	(R5年) 1,253日	↗	(R11年) 1,000日
	指標3	(看護師)代替看護師の年間派遣日数	—	(R4年) 799日	(R3年) 528日	(R4年) 799日	(R5年) 840日	↗	(R11年) 627日

◎ 全体的に改善傾向にある

へき地診療所及びへき地医療拠点病院、民間医療機関、県による巡回診療④

(4) 巡回診療実績（合計）

No.	巡回地区	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)	回数(回)	延べ患者数(人)
1	伊平屋	12	86	1	13	-	-	1	13	8	127	4	58	5	68
2	伊是名	1	16	4	71	-	-	-	-	3	32	2	29	4	51
3	伊江	17	284	8	131	2	21	13	201	4	70	4	83	8	107
4	粟国	7	68	20	210	18	120	33	225	20	97	22	143	27	173
5	座間味	16	128	16	132	16	148	12	110	10	74	12	81	22	165
6	渡嘉敷	16	120	12	91	11	70	10	56	5	46	10	60	8	51
7	久高	-	-	7	82	10	77	12	102	7	49	8	59	8	38
8	南大東	18	196	19	209	24	215	24	159	18	133	12	81	24	293
9	北大東	24	75	24	123	26	106	20	93	17	69	12	41	22	77
10	多良間	14	134	15	130	14	119	13	70	7	62	5	58	6	47
11	黒島	4	36	11	83	14	123	19	163	16	148	13	98	13	97
12	船浮	12	88	12	94	12	110	5	40	-	-	-	-	-	-
13	鳩間	12	53	12	78	12	49	6	27	11	49	4	5	4	46
14	伊原間	49	239	25	201	24	180	6	59	-	-	-	-	-	-
15	小浜	6	14	6	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	西表	6	46	6	46	6	48	6	33	3	25	8	24	6	37
17	波照間	4	55	6	78	6	42	4	33	3	21	6	20	6	39
18	与那国	35	481	43	593	38	543	41	556	28	461	41	711	47	724
		17地区		18地区		15地区		16地区		15地区		15地区		15地区	
合計①+②+③		253	2,119	247	2,383	233	1,971	225	1,940	160	1,463	163	1,551	210	2,013

必要な医療を対象地区外で受けるための通院費負担の軽減②

(2) これまでの実績

単位:延べ人数、千円

	補助対象者数							補助額						
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
合計	2,121	2,470	3,336	2,686	3,306	3,253	4,328	6,894	9,784	14,629	13,777	17,916	35,170	44,365
対前年比		116%	135%	81%	123%	98%	133%	0%	142%	150%	94%	130%	196%	126%
1 伊平屋村	127	176	218	168	173	140	198	197	221	265	318	286	586	813
2 伊是名村	103	121	252	142	127	104	473	105	96	212	158	114	232	750
3 伊江村	556	247	265	147	—	—	85	235	183	111	161	—	—	200
4 本部町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5 うるま市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 南城市	—	—	—	—	13	—	—	—	—	—	—	5	—	—
7 粟国村	51	48	52	22	46	42	71	195	124	121	64	137	219	576
8 渡名喜村	28	0	8	8	7	—	4	54	—	22	8	7	—	7
9 座間味村	37	160	101	53	55	26	103	70	274	186	116	101	108	373
10 渡嘉敷村	48	78	19	113	80	91	44	61	95	18	98	77	245	181
11 久米島町	183	248	442	416	515	616	610	912	1,003	1,821	1,834	2,221	4,445	4,445
12 北大東村	—	0	25	51	46	47	87	—	—	205	410	400	961	1,081
13 南大東村	100	145	249	171	203	183	196	997	1,253	2,237	1,913	2,165	3,167	3,259
14 宮古島市	303	406	440	367	561	590	808	1,769	2,641	3,083	2,895	4,244	8,374	10,940
15 多良間村	98	96	125	51	115	123	166	609	360	456	249	565	1,210	1,911
16 石垣市	286	361	375	285	403	429	651	1,390	1,782	1,898	1,589	3,120	5,908	10,759
17 竹富町	201	268	557	496	717	604	554	300	978	1,918	2,261	2,168	5,562	4,146
18 与那国町	—	116	208	196	245	258	278	—	774	2,076	1,703	2,306	4,153	4,924

ドクターヘリ、自衛隊、海上保安庁、添乗協力病院等との連携強化①

(1) 本県の添乗協力病院一覧（令和6年3月31日時点）

H28年度 11病院 → R5年度 12病院

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ① 社会医療法人敬愛会 中頭病院 | ⑦ 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター |
| ② 社会医療法人仁愛会 浦添総合病院 | ⑧ 沖縄県立宮古病院 |
| ③ 沖縄赤十字病院 | ⑨ 沖縄県立八重山病院 |
| ④ 沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院 | ⑩ 医療法人沖縄徳洲会 中部徳洲会病院 |
| ⑤ 医療法人沖縄徳洲会 南部徳洲会病院 | ⑪ 社会医療法人友愛会 友愛医療センター |
| ⑥ 沖縄県立中部病院 | ⑫ 琉球大学病院 |

(2) 医療施設ヘリポート数

H28年度 4病院 → R5年度 6病院

整備済：南部徳洲会病院、中部徳洲会病院、中頭病院、友愛医療センター、公立久米島病院、浦添総合病院

※ R6年度で琉球大学病院が整備完了

(3) ドクターヘリによる急患搬送の応需率

	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
沖縄	88%	85%	87%	86%	83%	82%	80%	76%
全国	77%	77%	76%	75%	73%	78%	－	－

(4) 搬送機関別実績

NO	搬送機関名称	年度別急患空輸実績(件)			
		R2	R3	R4	R5
1	ドクターヘリ	113	81	57	94
2	自衛隊	54	54	54	90
3	海上保安庁	64	66	65	72
4	その他	32	87	97	170
計		263	288	273	426

※ 搬送実績件数は、総搬送件数のうち対象地区分を抽出した件数

※ その他はメッシュ飛行機及び北部地域救急救助ヘリ

【部会の主な意見】

1. へき地診療所の利用率（分野アウトカム）の算出にあたっては、費用が発生するが有益な指標と思われる。ただ、社会保険による診療報酬請求件数も踏まえた利用率であればより信頼度の高い指標となるので、データが入手可能か確認した方が良い。入手が難しい場合でも、データの信頼性を担保するため、離島における国民健康保険の比率を入手するなどの対応が必要。
2. ドクターヘリの応需率についてはメッシュが入っていないので、ドクターヘリのみで評価していいのか。
3. 巡回診療の地区数について、実績が目標の半分以下となっており、伸び悩んでいるのであれば、オンラインによる巡回診療を検討してもよいのではないか。

取組と指標の整合性 (セオリー評価)	● 中間評価に向けて引き続き整理を行う。 ● 未確認となっている「へき地診療所の利用率（分野アウトカム）」については、有益な指標であるので、引き続き調査が必要。
取組の実施状況 (プロセス評価)	● 概ね適切に実施されており、継続した取り組みが必要。 ● 巡回診療の延べ回数や延べ患者数は伸びており、指標としては「改善」しているが、地区数の目標値が20地区に対して直近の実績が8から9地区となっており目標値の半分以下となっている。伸び悩んでいるのであれば、オンラインによる巡回診療を検討してもよいのではないか。
指標の進捗状況 (インパクト評価)	● 24指標のうち、13指標（54.1%）が「改善」した。 ● 個別施策の取組により中間アウトカムと分野アウトカムの「改善」に寄与している。
今後の取組方針 (総合評価)	● 現在の取組を継続しながら、より効果的な施策となるよう検討を行う。